

喫煙での炎症を軽減

京大とバイオV B 関連たんぱく発見

バイオベンチャーのフ
アーマフーズと京都大学
は、喫煙による口腔(こ
うこう)内の炎症や酸化
などの抑制に役立つたん
ぱく質を見つけた。たば
この煙の中に含まれる有
害物質の除去に役立つと
いう。来年にも食品での
実用化を目指す。

細菌や動物などさまざま
な生物にあるたんぱく
質「チオレドキシシン」に
着目。これをフィルター
に含ませてたばこの煙を

通すと「フリーラジカル」
と呼ばれる酸化や炎症に
かかる有害物質の除去
率が15%から55%に向上
した。

チオレドキシシンをタブ
レット状にし、人でのボ
ランティア試験をした。
喫煙後にタブレットを摂
取し、唾液(だえき)の
成分を分析。酸化を抑制
する酵素の活性が約2割
高まり、唾液の酸化を約
2割抑制できた。

酸化や炎症を抑えるこ
とで、のどや口腔内の違
和感を軽減できるとい
う。食品会社に働き掛け
て機能性食品などでの実
用化を目指す。